# 落ちこぼれの魔法執行人

ブラック武藤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
落ちこぼれの魔法執行人

【Ｎコード】
Ｎ２２７１Ｚ

【作者名】
ブラック武藤

【あらすじ】
魔法が戦いのためだけに使われてしまう近未来の日本で、友達もいない属性魔法も使えない落ちこぼれ魔法師の孤軍奮闘を描く物語です。

## プロローグ（前書き）

初めて書いた作品なので読みにくい所も多いと思いますが暖かく見守ってください。おねがいします。

# プロローグ

いつからだろう魔法なんてものが学力よりも世間で評価され始めたのは・・・・

いつからだろう魔法の優劣で人を見下したり馬鹿にするようになったのは・・・

いつからだろうぼくが落ちこぼれと言われるようになったのは・・・・・・・

俺は、高校の大きな校門をくぐりながら今日も小さくつぶやいた

「魔法なんてなければ良いのに・・・」

その声は誰の耳に届く事も無くただ風に流されていった。魔法が戦いのためだけに使われるこの冷たい世界を・・・・・

## 入学式（前書き）

期待に満ちた新入生の顔を見るといつも思う、俺が新入生の時もあんな顔してたのかな？

# 入学式

魔法なんてやっかいなものが世界に広まり、魔法を扱う者が魔法師と呼ばれるようになったのは、約１９８５年今からおよそ２５年前の事だ。ヨーロッパのとある小さな島国で開発された魔法という技術は、ヨーロッパを中心に少しずつ広まっていきアメリカなどの軍事転用のうわさが流れると魔法はすぐに多くの国に広まった。しかし、幸か不幸か魔法が現代兵器を上回る破壊力はなく、魔法のせいで戦争が起こる事も魔法が戦争に使われる事も無かったが、魔法の恐ろしい所は破壊力では無く、その隠密性にあった。魔法は、金属探知器に引っかかる事もなく手榴弾以上の威力を簡単に出す事ができ、その上自動小銃などによる銃撃は強化の魔法の前にほとんど効果は無く、魔法師を倒すためには、戦車級の兵器または魔法による攻撃が必要となった。そのため、魔法がテロや破壊工作などのゲリラ戦法に多く使われるようになり、魔法の多くは、テロ防止などに使われる事が多くなった。そして、テロリスト専門に戦う魔法師を日本では魔法執行人と呼んで多くの人から尊敬を集め魔法師の多くが魔法執行人を目指すようになった。俺が不本意ながら通っている学校も日本でたった五校しかない魔法執行人を養成するための学校である第四魔法専門高等学校（通称魔専）だ。

今日は四月一日、新入生が期待に胸を膨らませながら校門をくぐるのを横目に、魚の死んだような目をさらに濁らせながら歩いているのが俺事、二年E組（さはらぜん）佐原禅である。好きな事は昼寝と単純作業で、嫌いな事は人とコミニケーションとる事・・・ニート予備軍ではなく人と話さなくても良い仕事なら全然しても良いし、となると専業主夫か？でも結婚できなさそうだもんな～。などと考えていると気が付くと入学式会場の体育館についていた。俺の通う魔専はクラス替えが無いので自分が座る席は事前に分かっているので迷う事は無いが、遅刻ギリギリに来たので全校生徒総勢六百人以上の人がこの

体育館にいると思うと気分が悪くなった。自分のクラスの場所に行くとさすがに去年と同じ面子なのでみんな楽しそうにグループを作って話していた。逆説的に去年ボッチの俺は今年もボッチの可能性大である。クラスの列に加わると

「落ちこぼれがきたよ」

「よくあいつ進級できたな」

という声が聞こえてきた。まあ本当の事だしとあまり気にせず聞き流していたが、もしかするとあれは今はやりのツンデレというやつかもしれない。まあ、デレられても困るがなどとくだらない事を考えていたら、

「いつまで騒いでいるの！静かにしてください」

という静かだが冷たい声が響いた。

その声の主は、去年のクラスの学級委員長で、肩にかかる位の髪を後ろで一つに結んで、少し細目で線の細い美人だが愛想をお母さんのおなかの中に忘れてきたのではないかと疑われる程に愛想のない香取蘭（かとりらん）である。俺のことをキッと睨んで前の方へ歩いていった。

「すいませんでした」

となぜか反射的に謝ってしまったが、別に委員長が苦手な訳では無い。委員長とは、学校で唯一の同じ中学校出身だしクラスで唯一の俺に挨拶してくれる人だからな。まあ、得意な人もいないけどな。違う俺はみんなに平等に接しているだけなのだ、差別ダメ絶対と某広告機構のような事を思っている間に入学式は始まっていた。

入学式恒例の一年学年主任の長ったらしい話が始まった。

「え～みなさん御入学おめでとうございます。まず初めに現在日本では、他の魔法先進国に比べて魔法の導入が約5年も遅れていて優秀な魔法師の数が全く足りておらずこの高校を卒業してすぐに魔法師として活躍する者も多いと思われます」

魔法の導入が遅れてって、政府のお偉いさんが魔法の安全性がどうとか言って魔法を取得することを当初禁止したからだけどな。全

く迷うぐらいなら魔法なんて導入するな。
「魔法師としての基礎能力は、高校までで大体決まってしまうので魔法執行人を養成するこの学校の生徒であるという自覚を持って魔法の勉強をしてもらいたいと思います」
確かに、大人がいきなり魔法の勉強を開始するのと小さい時から魔法の勉強をするのでは比べ物にならない位の差が出てしまう。そのため、魔法執行人には二十代ぐらいの若い人が多く、学生のうちから魔法師として働いている人もいる。
「ではみなさん魔法執行人を目指して三年間がんばってください」
あれ以外と話短かったな。毎年似たような話をしているから飽きちゃったのかな。次は新入生代表の話かぁ、新入生代表は入試の成績一位の生徒がすることになっていて、クラスの奴らが今年の新入生代表はかなり美人だとさっき騒いでいたので、どんなもんかとみてみると、檀上には長い黒髪の目のパッチリしたお人形さんのような女の子が挨拶をしていた。確かにクラスの奴らが騒ぐのも無理はないと思ったが、あの目には少し影があるように思えたが、多分気のせいだな。美人で成績が良いとかリア充すぎて少し嫉妬しただけだな。リア充爆発しないかな。
こうして入学式が終わり各自新しい教室に移動するようにという話があり俺の鬱でしかない二年の春が始まった。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2271z/

落ちこぼれの魔法執行人

2011年12月11日17時51分発行